

委員会の進め方と今後の予定

令和6年2月20日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核燃料・バックエンド研究開発部門
地層処分研究開発推進部

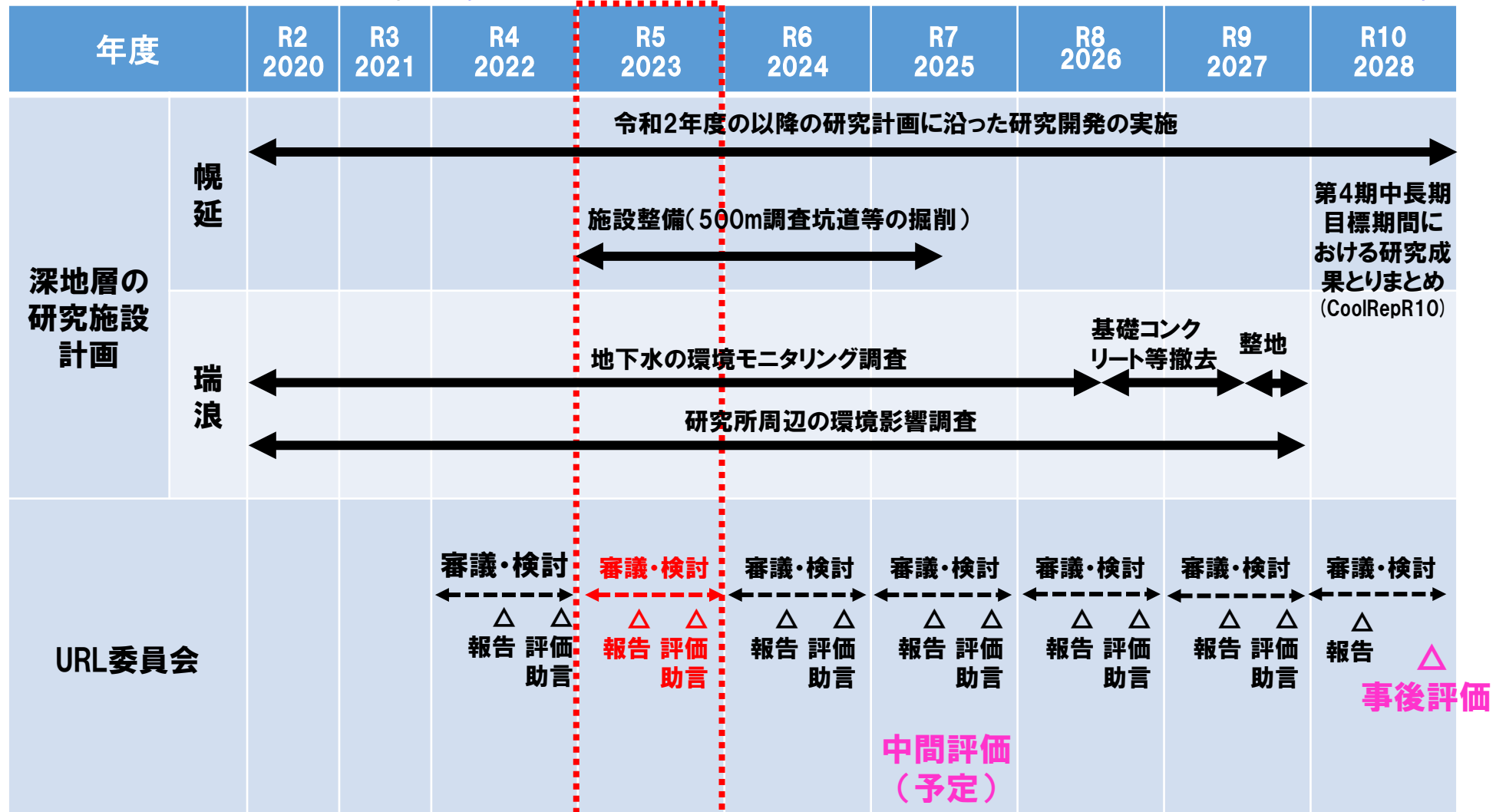
報告内容

1. スケジュールについて
2. 審議検討の進め方について
3. 審議検討結果の取りまとめについて

1. スケジュールについて(全体)

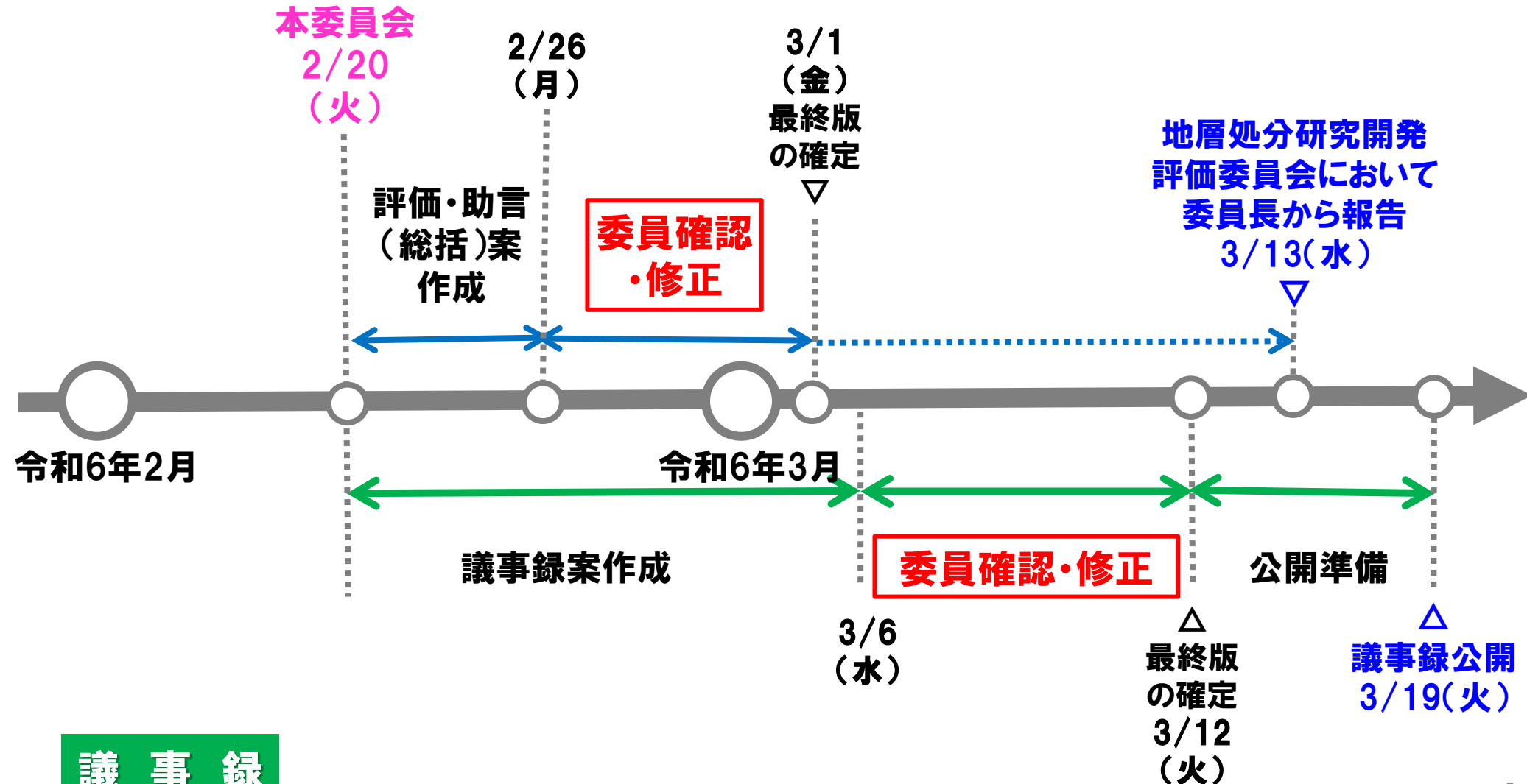
第3期中長期目標期間
(H27年度～R3年度)

第4期中長期目標期間
(R4年度～R10年度)



1. スケジュールについて(詳細)

評価・助言(総括)



2. 審議検討の進め方について

審議検討の内容

幌延

必須の課題に関する令和5年度の研究開発成果(必須の課題)と令和6年度の計画について

瑞浪

地下水の環境モニタリングや成果の取りまとめ等に関する令和5年度の実施結果と令和6年度の計画について

審議検討結果の取りまとめ

技術的評価

委員会での審議検討結果に基づく総括

技術的助言

委員会での審議検討結果に基づく総括

3. 審議検討結果の取りまとめについて

令和5年度の成果について

【総括】

令和5年度の幌延深地層研究計画については、……

【特記事項】

- ・ ○○の試験については、……

（審議検討結果の総括のイメージ）

令和6年度の計画について

【総括】

令和6年度の幌延深地層研究計画については、……

【特記事項】

- ・ ○○の試験については、……

幌延の評価の観点

- ・ 計画に沿って着実に実施されているか
- ・ 研究の方法や結果は高い科学的・技術的水準を有しているか 等

瑞浪の助言の観点

- ・ モニタリングデータの結果等に対するアドバイス
- ・ 成果の具体的活用に対するアドバイス 等

参考① 令和4年度における評価・助言総括の結果(抜粋)

幌延深地層研究計画について

令和4年度の成果については、目的に沿った研究開発が当初計画通り着実に進められていると評価できる。人工バリア関連の試験においては、観測データと予測解析との比較を通じた手法の妥当性の確認が行われる等、技術的に価値のある進展が認められる。地殻変動による人工バリアへの影響・回復拳動試験については、学術雑誌に成果が公表され、手法の整備が適切に遂行されたと評価できる。

令和5年度の計画については、当初計画及び令和4年度の成果を踏まえた内容となっており、妥当と考えられる。実施にあたっては、幌延国際共同プロジェクトを最大限に活用した取り組みを期待する。

超深地層研究所計画(瑞浪)について

令和4年度に実施されている地下水の環境モニタリング調査については、坑道の埋め戻しが完了してから1年目のデータが得られている状況であり、今後も継続的なデータ取得が可能となるようにモニタリング調査全体の流れ等を改めて確認するほか、水圧・水質データの変化を分かりやすく表示することが望まれる。

令和5年度の計画においては、水質調査用に採取した地下水サンプルに関して、データの再確認等に備えた予備試料の保管を検討されたい。瑞浪で得られたデータやボーリングコア等の研究資源については、学術的な価値や一般の方々への理解促進の観点から、多くの方により一層活用されるよう工夫することが望まれる。

参考② 国内の地層処分に関する最近の主な動向

国の審議会における文献調査の評価に関する検討

- ✓ 令和5年10月13日に第1回特定放射性廃棄物小委員会が開催され、「文献調査段階の評価の考え方(案)」に対するパブリックコメント(約1カ月間で53件の意見)を踏まえた修正が示された。その後、これまでの検討結果を踏まえ、令和5年11月2日に、「**文献調査段階の評価の考え方**」が国により取りまとめられた。
- ✓ また、パブリックコメントおよび令和5年4月28日に改定された「特定放射性廃棄物の最終処分に関する基本方針」を踏まえて、**文献調査報告書の縦覧・説明会開催の期間**について議論された。「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律施行規則の一部を改正する省令(案)」に対する約1ヶ月のパブリックコメント募集を経た後、令和5年12月27日に期間を「1ヶ月」から「**30日以上**」に改正された。
- ✓ 令和6年2月13日に第1回地層処分技術WG*が開催された。NUMOより寿都町・神恵内村の「文献調査報告書(案)」が公表され、「文献調査段階の評価の考え方」に基づいた評価および検討のプロセスについて議論が開始された。

国の審議会における最終処分施策の更なる検討

- ✓ 令和5年12月11日に第2回特定放射性廃棄物小委員会が開催され、対馬市での議論を踏まえて、理解促進の妨げの要因と新たな施策の方向性(案)が示されるなど、最終処分施策の更なる検討について議論された。

参考資料

URL委員会の設置目的

深地層の研究施設計画検討委員会（URL委員会）（設置規程より抜粋）

【幌延深地層研究計画（北海道幌延町）】
深地層研究計画における研究開発について
審議検討をいただき、客観的な評価を得る

委員会への報告事項

- ・地下に展開した坑道等を利用した地層処分技術に関する研究開発

審議検討・
評価

評価の取りまとめ

深地層の研究施設計画への反映
・優れた成果を効率的に得る
・処分事業や安全規制等に時宜よく反映していく

評価の報告

【超深地層研究計画（岐阜県瑞浪市）】
成果の取りまとめやモニタリングデータ等に関する助言を得る

委員会への報告事項

- ・これまでの成果の取りまとめ
- ・坑道の埋め戻し等の作業
- ・環境モニタリング（地下水の水圧・水質観測）

助言

助言の取りまとめ

助言の報告

地層処分研究開発・評価委員会（設置規程より抜粋）

- ・高レベル放射性廃棄物等の地層処分研究開発における研究開発課題の評価を実施するとともに、研究開発に関する事項について討議する。

研究計画全体の評価

令和2年度以降の幌延深地層研究計画に関する進捗・達成度については、URL委員会で審議・評価されることが、下記の通り北海道および幌延町より確認されている。

- 令和2年度以降の研究は、第3期及び第4期中長期目標期間を通じて、技術基盤の整備の完了が確認されるよう進めること。
- 「技術基盤の整備の完了」とは、幌延深地層研究センターの地下施設において、調査技術やモデル化・解析技術が実際の地質環境に適用して、その有効性が示された状態を意味すること。
- この確認は、国や原子力機構の外部評価委員会(深地層の研究施設計画検討委員会や地層処分研究開発・評価委員会)等で外部専門家により行われるものと想定していること。

※幌延深地層研究の確認会議における確認事項(令和元年度の内容より一部抜粋)